

# 農事組合法人 走瀉（熊本県宇土市）

## 組織の概要

- 地域の担い手が減少する中、農地を守る担い手組織として、同市走瀉地区にH27年に設立
- 構成農家 102戸＋事務2名
- 主食用米から飼料用米へ転換することで収益性の改善に取り組む
- 地域内で80ha以上の農地集積を目指して規模拡大を図っているところ

## 生産概要

- 【作付面積】主食用米：10.3ha、飼料用米：52.8ha、小麦：17.2ha（R3）
- 地下水位が高いため、県事業の暗渠排水事業を活用し、ほ場の排水性を改善
- 排水が改善されたほ場を中心に麦を作付け、令和元年からは大豆の新規作付けに取り組んでおり、作付面積を10haまで拡大予定。
- 現在は構成員への作業委託が主だが、構成員の高齢化のため法人オペレーターによる作業面積が増加

## 取組のポイント

### <主食用米のからの転換と作業分散を目指して大豆の新規作付けを開始>

- 水稻の作業受託面積の増加に伴い、作業分散のために大豆を新規導入
- 作柄安定のために畦立播種や晩播の際の密植栽培など安定生産技術を検証



狭畦畦立播種



畦立播種

### <ほ場の団地化>

- 水稻の作業受託面積の増加に伴い、作業分散のために大豆作付面積の拡大していく計画。
- 月1回の理事会により、大豆作付ほ場の選定や拡大の方針を協議
- 次年産作付けについては、11月の理事会で大豆作付けの団地化について協議を行い、4haに拡大予定。
- 暗渠等排水対策が実施されたほ場を中心に作付けほ場を団地化

### <大豆生産に向けて大豆専用コンバインの導入>

- 転作田を団地化し、大豆作付面積を拡大予定
- オペレータの作業面積が拡大する中、収穫作業を効率化し、今後の大豆 作付面積の拡大を行う。



大豆専用コンバインの導入

## 取組成果

団地化の検討会の実施により団地化率を向上させ、作業効率化により作付けを拡大

### <団地化率の向上>

- 大豆 0%（R3）→ 0%（R4）→ 40%（R6目標）

### <面積の拡大>

- 大豆 0ha（R3）→ 0.45ha（R4）→ 10ha（R6目標）  
※単収 168kg/10a（宇土市平均：110kg/10a）

